

第2学年「動物の生活と種類」における課題解決学習

- 直接体験を重視し、主体的に探究する指導法の工夫 -

品川区立城南中学校教諭 菊地 信江

品川区立日野中学校教諭 能崎 理恵

1. はじめに

授業者の教え込みを中心とする一斉・画一的な授業においては、教科書記述の内容にしたがって論理的に順を追って授業を進める方法がとられるのが普通である。そのため生徒は受動的であり、授業者が与える知識を吸収することに専念し、生徒自身の考えを生かす場は限られる。

しかし、今や我が国は、より情報化、国際化の進展した変化の大きい時代を迎えるにあたり、国民の資質として創造性や表現力の育成が強く求められている。このような状況をふまえ、生徒が自ら課題を設定し、その解決に向けて様々な方法で各種メディアを活用しながら主体的に学習活動を進めることができるような学習方法を工夫したの

で報告する。

特に、「人体」という最も身近な教材について、「ブタの内臓の解剖」という直接体験を導入に用いた。マルチメディア CD-ROM やインターネット等の新しいメディアを調べ学習で活用した。

技術科との異教科間チームティーチング及び養護教諭との連携を図った。報告書の作成、発表の手順をマニュアル化した。これらにより、学習方法の幅を広げ、生徒の興味・関心を高め、無理なく学習が進められるように配慮した。

2. 実践の方法と内容

(1) 単元の学習計画

単元の学習計画を、3つの部分で構成し、下の表に示した。

3. 実践の成果と課題

- ・ 課題解決学習の授業で用いる一連の指導用資料やワークシートができた。
- ・ 報告書、発表会、いずれも熱心に取り組む生徒が多く見受けられた。生徒が自分で納得して決めた課題を最後まで主体的に追究することが分かった。
- ・ 細かく段階を分けて指導すると、ふだん理科や学習一般に対する意欲が低い生徒でも、報告書が完成でき、発表ができることが分かった。
- ・ 形式的には項目が整っているが、内容が乏しい

単元の学習計画	
(1) 動物のつくりと働き 27時間の取り扱い (うち技術科として2時間)	
学習の流れ	
導	単元の導入(1時間)
入	ブタの内臓の解剖(2時間)
調	課題の情報の収集、課題の設定(2時間)
べ	設定
学	課題の情報の整理、情報の加工(4時間)
習	解決
	まとめ 情報の発表、相互評価(6時間)
補充的なまとめ(5時間)	
(2) 動物の仲間(7時間)	

報告書が見受けられた。調べ学習を段階ごとに細分化して指導したことで、全生徒に同じ指導が徹底できたが、一方で内用が不十分なまま形式だけの報告書もあった。今後継続して指導する必要がある。

・ 実践を通して課題解決学習に対する共通理解が教員間に自然に生まれた。特にチームティーチングを行った技術科担当教諭及び養護教諭とは、共通理解が深まった。同じことが、生徒どうし及び生徒と授業者との間に芽生えた。

・ この調べ学習の実践は、理科の他の単元で応用できるだけでなく、学校行事などの特別活動や総合的な学習の授業でも活用ができる可能性があることがわかった。